

計画策定に向けた障害者関係団体及び事業者向けアンケート等の結果概要

1 団体向けアンケート・意見交換会結果

・回答依頼数 8 団体、回答数 8 団体（回答率 100%）

▼会員から多く寄せられる困りごとや課題(主なもの)

○支援体制

・強度行動障害を含む重度障害児者への支援が不十分である。

○情報

・自分の意志などを手話以外で伝えられない人は、急病など緊急時の対応が不安。

○将来の不安

- ・親亡き後の当事者の生活（住まい）が不安。
- ・自分が元気づち親として何をすればいいかわからない。
- ・1人ではゴミ出し等を決められた時間にできないなど、生活面、契約（手続き）、金銭管理への不安。
- ・ひきこもりの対応。本人も家族も高齢化して不安。

○心身的・経済的負担

- ・精神疾患により精神科に通院しているが、一般病院にも通院するようになり医療費の負担が大きい。
- ・精神障害者手帳を持っているが障害年金の該当にならず、働くこともできない。
- ・当事者からの暴力・暴言による家族の一時避難先がほしい。
- ・山間地から病院外来に通う交通費（タクシー代）が高い。

○移動

- ・障害が重く高齢なため車が運転できず、いろいろな行事に参加したくても、会場や集合場所に行くための交通手段が厳しい。
- ・災害時、視覚障害者は避難所への移動が難しい。

○その他

- ・公共施設のバリアフリー化を望む。
- ・行政の申請書類などの簡略化。専門用語が多くわかりにくい。

2 事業者向けアンケート結果

■回答依頼数 43 法人、回答数 20 法人（回答率 46. 5%）

（回答法人内訳：社会福祉法人 8、NPO 法人 5、株式会社 4、一般社団法人 2、一般財団法人 1）

▼施設整備計画（新設・定員増を伴う増改築）

サービス種別	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
グループホーム	0	2	2	4
就労継続 A	1	0	0	1
就労継続 B	2	0	1	3
相談支援事業所	0	0	1	1
計	3	2	4	9

▼利用者から多く寄せられる困りごとや課題(主なもの)

○支援体制

- ・グループホームの数が足りない。
- ・重度の身体障害者が利用できるグループホームが少ない。
- ・強度行動障害の方の受け入れができる短期入所やグループホーム、日中活動の場がない。
- ・女性のグループホームが不足している。
- ・個人の自由が利き、個人の尊厳が保てる人権モデルの居住がほしい。支援付きアパートやケア付き住宅があるとよい。
- ・放課後等デイサービスや短期入所、グループホーム等、地域によってサービスの不足が大きい。
- ・ヘルパー以外の訪問支援や生活支援がない。
- ・緊急時 365 日、24 時間体制で相談できる機関が必要。
- ・長く伴走してくれる機関がほしい。

○就労に関すること

- ・就労したいが自信がない。
- ・一般就労後、利用者が困ったりした際の相談体制が心配。
- ・就労継続支援 A 型を利用したいが事業所が少なく、自分に合う仕事がない。

○移動

- ・事業所によっては送迎がなく、事業所が選べない。
- ・交通機関へのアクセスに不便な場所に位置するグループホームが多く、そこから通える就職先となると選択肢が限られる。
- ・親が買い物等の移動支援を行っているが、出来なくなった時にどうすればよいかわからない。
- ・ストレッチャー移動の福祉タクシーが少ない。

○その他

- ・家族の高齢化、「親亡き後」が不安(住まい、日常生活、地域住民との関係、除雪)。
- ・将来の生活が不安、今後の病気が心配。
- ・施設入所の申請をしても受け入れてもらえなかった。待機もできない。
- ・障害のある子どもとどのように関わったらいいか、誰に相談したらいいかわからない。
- ・感染症流行時の際、自宅待機が家族のみの対応では困難。
- ・障害から介護保険サービスに移行する際に、利用料の負担があり利用に躊躇する。
- ・物価高やエネルギー資源の高騰による家計が圧迫されており、年金では賸えない。

▼事業所の課題や不足しているサービス等

○課題

- ・相談支援事業所の運営が厳しい。
- ・専門職マンパワー人材が少ない。採用が困難な状況

○不足しているサービス等

- ・相談支援事業所
- ・グループホーム
- ・強度行動障害のある人が利用できるサービス(生活介護など)
- ・訪問介護、行動援護のヘルパー(特に男性ヘルパー)
- ・若年層の身体障害のある人を受け入れることができる施設やサービス
- ・休日の緊急対応等